

アンケート結果(抜粋:主に記述部分を掲載、その他の部分は平成28年度成果報告書参照)

[学生アンケート結果:施工]

◆企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)

- ・現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
- ・図面からの読み取り、現場の見学など。
- ・現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
- ・実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
- ・職人さんたちと直接話をすることができたこと。
- ・現場の人とのコミュニケーション、仕事内容、安全管理など。
- ・色々な職業があるのが分かったこと。
- ・左官の仕事が体験できたこと。
- ・学校の座学だけでは分からないこと、聞いているだけでは分からないことが企業内実習で実際に体験することで分かるようになったこと。
- ・学校の授業だけでは分かりにくかったことも、実際に見ること体験することで分かるようになった。
- ・職人の人たちと一緒に作業すること。
- ・施工管理の試験の役に立ったと思うこと。
- ・社会人としてのマナー、徹底した安全配慮、現場がどのように動いているのか知ることができたこと。
- ・実際の仕事を近くで体験できたこと。
- ・全く知らなかった造園の仕事内容が分かったこと。
- ・造園施工管理士、建築施工管理士、ビオトープ施工管理士、土木施工管理士などの試験に役立ったこと。

◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・企業内実習で習ったことを活かしたい。
- ・色々な体験ができることを期待する。
- ・木造や住宅に関する企業内実習も増やしてほしい。
- ・もっと学校の授業で現場見学に行ったりするとよいと思う。
- ・今後も継続し続けてほしい。
- ・色々な企業内実習があるところ。
- ・公共施設の現場もできれば体験したい。
- ・企業内実習を辞めないでほしい。
- ・企業内実習の内容を最初に全て説明して計画を立てられるようにしてほしい。

◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・今のままでよい。
- ・サマー企業内実習の期間がもう少し長くしてもらいたい。
- ・十分に充実していたと感じている。
- ・時間をもっと多く、内容を厚くしてほしい。
- ・資格に役立つ現場も見てみたい。
- ・もう少し長期の企業内実習もあった方がよいと思う。

【アンケート結果】

<企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」60.9%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」60.9%、「将来役立つと思ったから」43.5%が主な回答であった。

<企業内実習参加の不安な点>

「企何を勉強すればよいか分からない」37.5%、「学校内の勉強だけでよいと思った」25.0%、「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」12.5%が主な回答であった。

<企業内実習の体験から得られたもの>

「知らないことの多さ」78.3%、「現場での実践的な知識の習得」56.5%、「現場での実践的な技能の習得」52.2%、「将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得」43.5%が主な回答であった。

<企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」60.9%、「理解している」34.8%と多くの保護者から理解を得られているとの回答であった。

<企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」69.6%、「良かった」30.4%と全員から良かったとの回答が得られた。

【まとめ】

企業内実習を通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものが携わっており、一つの知識のみでは成り立たないという良い体験ができたと考える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでも企業内実習は少なくとも学生にとっては、「何をすべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、企業内実習を通して参加した学生は、業界に携わる者としての自覚が芽生え始めている。

今後もこの取組みを継続しつつ、より充実な内容としていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。

〔学生アンケート結果:設計〕

◆企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)

- ・授業では教えられていないたくさんの新しい知識が身に付いたこと。
- ・現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
- ・設計事務所の仕事の内容を間近で体験できたこと。
- ・実際の現場の雰囲気を味わえたこと。
- ・本読み。
- ・図面からの読み取り、現場の見学など。
- ・実際の仕事で使う資料の作成ができたこと。
- ・現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
- ・模型造りやC A D。
- ・模型を作る際に、部材の切断面の綺麗な出し方など教えてもらったこと。
- ・実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
- ・学校では分からないことを実際に見て学べたこと。
- ・実際の図面や現場を見ることができることや、授業では分からなかったことが分かるようになったこと。

◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・協力。
- ・企業内実習で習ったことを活かしたい。
- ・色々な体験ができることを期待する。
- ・木造や住宅に関する企業内実習も増やしてほしい。
- ・このままで良いと思う。

◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・今のままでよい。
- ・学校側が内容を決めてほしい。
- ・サマー企業内実習の期間がもう少し長くしてもらいたい。

【アンケート結果】

<企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」70.0%、「就職に有利になると思ったから」45.0%、「将来役立つと思ったから」と「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」各40.0%が主な回答であった。

- ・学校では体験できない現場での作業風景が見られたこと。
- ・周囲を見て次に何をすべきか、どのように周りを動かすべきかなど。
- ・現場の人たちとのコミュニケーション。

◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- ・企業内実習の日数を増やしてほしい。
- ・他の地域での企業内実習の実施。
- ・みんなの手を止まらないようにしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・本校の良さをアピールすること。

◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・候補先をいくつか出し、自分が一番興味をもったところに行けるようにする。
- ・宿泊がなく、もう少し手軽に行けるようなものがあれば良い。
- ・手が止まったり、固まったりすることがあるため、班の中でも学年別の2人ペアを組ませるなどの工夫をしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・仕事内容の把握。

【アンケート結果】

<企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」75%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.0%が主な回答であった。

<企業内実習参加の不安な点>

「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」と「めんどくさいと思った」、「人間関係」が各33.3%の回答であった。

<企業内実習の体験から得られたもの>

「現場での実践的な技能の習得」80.0%、「現場での実践的な知識の習得」65.0%、「知らないことの多さ」45.0%が主な回答であった。

<企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」65.0%、「理解している」35.0%との回答であった。参加する学生の保護者からは企業内実習についての理解を得られているという回答であった。

<企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」65.0%、「良かった」35.0%と全員から良かったとの回答が得られた。めんどくさいと思っていた学生からは最終的には良かったと回答していた。

【まとめ】

企業内実習を通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものがあり、それを体験できたことが良い経験となったと思える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでも企業内実習は少なくとも学生にとっては、「何をすべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、多くの体験をしたことで、好奇心が芽生えてきている。

学生に対して仕事の楽しさを伝えることができていることが励みとなる。今後もより充実した内容を実施し、参加する学生に仕事の楽しさを伝えていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。

[学生アンケート結果:マイスター]

◆企業内実習に参加して自分の成長に役立ったこと(記述)

- 昔のやり方や、現在学んでいる分野とは別の分野のことも体験できたこと。
- 現場の体験ができたこと。
- 現場での動き方。
- 様々な道具の使い方を教えてくれたこと。
- 古民家再生:既存のもの良さを残したまま加工していく作業体験ができたこと。
- 仕事の難しさを体験できたこと。
- 普段学校ではできない事を一から学べることができたこと。
- 実際の現場に出たことで職人さんの技術を目の当たりにすることができたこと。
- 学校では体験できない現場での作業風景が見られたこと。
- 周囲を見て次に何をすべきか、どのように周りを動かすべきかなど。
- 現場の人たちとのコミュニケーション。

◆企業内実習において学校に期待すること(記述)

- 企業内実習の日数を増やしてほしい。
- 他の地域での企業内実習の実施。
- みんなの手を止まらないようにしてほしい。
- 食事のこと。
- 本校の良さをアピールすること。

◆企業内実習の体験後気づいた点や提案等(記述)

- ・候補先をいくつか出し、自分が一番興味をもったところに行けるようにする。
- ・宿泊がなく、もう少し手軽に行けるようなものがあれば良い。
- ・手が止まったり、固まったりすることがあるため、班の中でも学年別の2人ペアを組ませるなどの工夫をしてほしい。
- ・食事のこと。
- ・仕事内容の把握。

【アンケート結果】

<企業内実習への関心理由>

「学校では体験できないことがあると思ったから」75%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.0%が主な回答であった。

<企業内実習参加の不安な点>

「社会人(知らない大人)との接し方が分からない」と「めんどくさいと思った」、「人間関係」が各33.3%の回答であった。

<企業内実習の体験から得られたもの>

「現場での実践的な技能の習得」80.0%、「現場での実践的な知識の習得」65.0%、「知らないことの多さ」45.0%が主な回答であった。

<企業内実習についての保護者の理解>

「よく理解している」65.0%、「理解している」35.0%との回答であった。参加する学生の保護者からは企業内実習についての理解を得られているという回答であった。

<企業内実習に参加してどう感じたか>

「すごく良かった」65.0%、「良かった」35.0%と全員から良かったとの回答が得られた。めんどくさいと思っていた学生からは最終的には良かったと回答していた。

【まとめ】

マイスターの企業内実習においては、技術の習得が主な目的の一つでもある。回答にもその傾向が表れている。その中の一つに、職人の技術を目の当たりにすることにより自分の成長に役立ったとある。

一方、企業側が大事にしている社会人としての最低限のマナーやコミュニケーションについては、学生としてはそこに重きを置いていないため、気づいていないという点が見受けられた。

学校の授業だけでは分からないことも、企業内実習を通すことにより、理解できたり気づいたりという得られることは多いと思われる。

今後の取組みにおいては、学生から日数を増やしてほしいとの声もあるため、現状の取組みと並行しながら、長期企業内実習の取組みを検討していく。

施工、マイスター、設計学生アンケートまとめ

施工、マイスター、設計と全体を通して見ると、学生が参加する前に不安な部分はあるのが見受けられたが、最終的には、参加者全員が学校では学ぶ事のできない多くのものを学んで満足した様子であった。

社会人(知らない大人)とのコミュニケーション(人間関係等)に不安を抱えていた学生も現場の雰囲気になれることができた。

また、実際の現場においては学ぶ事が多く、社会人として当たり前のことでも学生にとっては「できない」ということを経験し、自分自身が知らないことが多々あることに気づかされた点は、学生にとっても良い刺激になったと思える。

学生からの声にもあるように、もっと企業内実習の時間数を増やしていくことが必要と思われるが、現在のカリキュラムとの兼ね合いもあり、検証を重ねる必要がある。

ある程度の最低限の資格を有することは必要前提であるが、より即戦力になり得る人材を数多く育成する目的の手段として、現場の雰囲気を知る必要がある。

企業内実習は現場の雰囲気を知る最も良い方法の一つとかがえる。今後は、企業と学生にとっても有意義となるようなカリキュラム作りが求められている。

[企業アンケート結果]

<企業内実習の受入れ頻度>

「毎年受入れている」75.0%、「依頼があったときに受入れている」25.0%であった。

<企業内実習の受入れ目的>

「業界全体の向上のため」と「人材確保のため」各75.0%、次に「地域貢献・活性化のため」50.0%であった。

<企業内実習に参加する学生に求めること>

「あいさつ」と「コミュニケーション」各75.0%、次に「他人の話を聞く姿勢」50.0%であった。

<企業内実習受入れの課題>

- ・年度末の繁忙期の受入れは避けたい。
- ・社会人として最低限の礼儀
- ・長期となる場合には、受入れる現場が無い可能性がある。
- ・会話ができること。

<企業内実習の安全対策>

- ・足場上など墜落の危険がある場所へは立ち入らない。
- ・通勤時(朝・夕)。
- ・高所作業、電動工具の取り扱い等にはミーティング、その他ケースバイケースでその都度安全対策に望んでいる。
などの対策が行われている。

<企業内実習受入れの配慮>

「生徒とのマッチング」、「従業員の指導方法」、「知識(スキル)・技術力を習得させること」、「コミュニケーション」各50.0%であった。

<企業内実習の継続性の考え>

現場次第との回答もあったが、企業内実習に適した現場があること望ましいことが前提としてある。アンケート協力先企業では全社から継続して受入れるとの回答が得られた。

(3)まとめ

アンケート協力した企業は、精力的に学生の受入れの体制を整えている。その目的として、業界全体の向上と人材確保という明確な答えがある。

しかしながら、企業としては良い人材は優先的・独占的に採用したいものだが、今回のアンケート協力の企業は、業界の発展が第一とした奉仕の精神で企業内実習を受入れている考えである。このような考えが基礎となっていることで、ワンランク上の人材育成への協力が成り立っている。

特定企業での企業内実習は現場の状況にもよるため厳しいものの、今回のアンケート協力企業のような、企業内実習の受入れに賛同の回答をいただいた企業が数多く集まることにより、安定した現場の確保が可能となり、産学連携の継続的な企業内実習が成り立つと考える。

企業内実習アンケート総括

アンケート結果から、現在取組んでいる企業内実習において、現場の「生」の雰囲気を経験できた学生と受入れた企業ともに好印象である。

企業内実習について、参加した学生からは感心が無かった者も最終的には参加して良かったとの回答が返ってきていること、企業側も現場の問題はあるが、継続して受入れ体制は整えてもらっていることが、今後も必要不可欠な教育手法の一つであると確信した。

これは、学生が得られたこととして「知らないことの多さ」、「現場での実践的な知識の習得」、「現場での実践的な技能の習得」が上位に位置していることに対して、企業側も配慮の上位に「従業員の指導方法」と「知識(スキル)・技術力を習得させる」と応えているところにある。

ただし、学生は現在よりも長い期間で色々な体験をしたいと望んではいるものの、企業側としては工程の調整など受入れる時間には限界があるのも垣間見える。

今後は、学生の就職先となる業界に対して、企業と業界団体との連携を図りながら、企業内実習のスケジュール調整(繁忙期等の問題考慮)を上手くコーディネートする能力が学校側に求められている。